

# 長

崎空港からわずか三十分のフライトで到着する壱岐島。エメラルドグリーンのに浮かぶ穏やかな佇まいは、春の柔らかな風を感じさせる。

壱岐は神秘の島。島内には法人登録されたものだけでも百五十を超える数の神社が点在し、干潮時のみ渡れる「小島神社」や由緒ある「月讀神社」など、パワースポットを求めて、毎年多くの観光客が訪れる。

九州本土と朝鮮半島間の玄界灘に浮かぶ壱岐は、その地理的条件から古来より、東アジアとの交流拠点として重要な役割を担ってきた。弥生時代には『魏志』倭人伝に「一支国」として登場している。この『魏志』倭人伝には、三十一の国名が記されているが、国の場所と

王都の位置の両方が特定されているのは国内で唯一、壱岐の「原の辻遺跡」だけ。建物ややぐら、門などが復元された原の

辻遺跡に立つと、まるで弥生時代にタイムトリップしたよう。

「そっぽを向いたサル」にそっくりな猿岩やイルカパーク&リゾート、一支国博物館など、見どころ満載の島ながら、島内は約二時間あれば車で一周することができる。古代の風を感じながら、特別な島旅を楽しもう。

# 壱岐

穏やかな  
古代の風に吹かれて



一支国博物館に展示されている古代船の実寸模型。  
今から約2000年前、大陸や朝鮮半島の人々は、準構造船と呼ばれる古代船で、一支国に至る海の道を往来していた。

